

2015.3.21

春の名曲コンサート —春を呼ぶ名曲選—

プログラム

春が待ち遠しい季節になりました。そこで今日は、「春」という題名の付いた曲、春を感じさせてくれるような名曲を集め、春の気分を味わっていただきたいと思います。

J・シュトラウスの“春の声”は晩餐会の席上で即興的に書き上げたと言われる若々しいワルツです。グリークの「春」は弦楽合奏（2つの悲しい旋律）にも編曲されている名曲で、死を覚悟した老人が春を迎えた喜びを謡うヴィニエの詩によっています。「ソルヴェーグの歌」もソルヴェーグが旅するペール・ギュントを待ちわびながら歌う季節感に溢れた名作です。チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲はロシア風の独特の哀愁や生き生きとした躍動感が魅力で、古今のヴァイオリン協奏曲の中でも傑出した作品のひとつで、人気も高い名曲です。狂詩曲「スペイン」はフランスの作曲家シャブリエの代表作で、スペイン旅行で知った舞曲や歌をもとに書き上げた色彩感が素晴らしい作品です。イタリア出身のヴァイオリンの鬼オパガニーニは、ヴァイオリンとギターのための作品を数多く残していますが、カンタービレとロンドンチーノも美しさと楽しさに溢れた佳曲で、パガニーニの違った一面を知ることが出来ます。ビゼーの交響曲第1番はビゼーの現存する唯一の交響曲で、20歳の作品です。湧き出て来るような美しい旋律、若々しい生命力に溢れた新鮮な響きが、独特の魅力を放っています。ごゆっくりお楽しみください。

ヨハン・シュトラウス二世 (1825~1899): ワルツ “春の声” op.410

エーリッヒ・ラインスドルフ指揮ウィーン交響楽団
(1975.5 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

エドゥアルド・グリーク (1843~1907): 歌曲 “春” (12の歌 op.33 第2曲)

ソルヴェーグの歌 (劇音楽 “ペール・ギュント” op.23より)

バーバラ・ボニー (ソプラノ)

マリス・ヤンソンス指揮オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
(2000.4.13 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

ピョートル・チャイコフスキー (1840~1893): ヴァイオリン協奏曲ニ長調 op.35

五嶋みどり (ヴァイオリン)

クラウディオ・アバード指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1995.3.8 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

エマニュエル・シャブリエ (1841~1894): 狂詩曲 “スペイン”

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(2002.4.7 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

ニコロ・パガニーニ (1782~1840):

カンタービレニ長調

ロンドンチーノ (小さなロンド)

ギル・シャム (ヴァイオリン) / イヨラン・セルシエル (ギター)
(1997.6.28 王子ホールでのLive)

ジョルジュ・ビゼー (1838~1875):

交響曲第1番ハ長調

ジョルジュ・プレートル指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(2007.11.11 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)